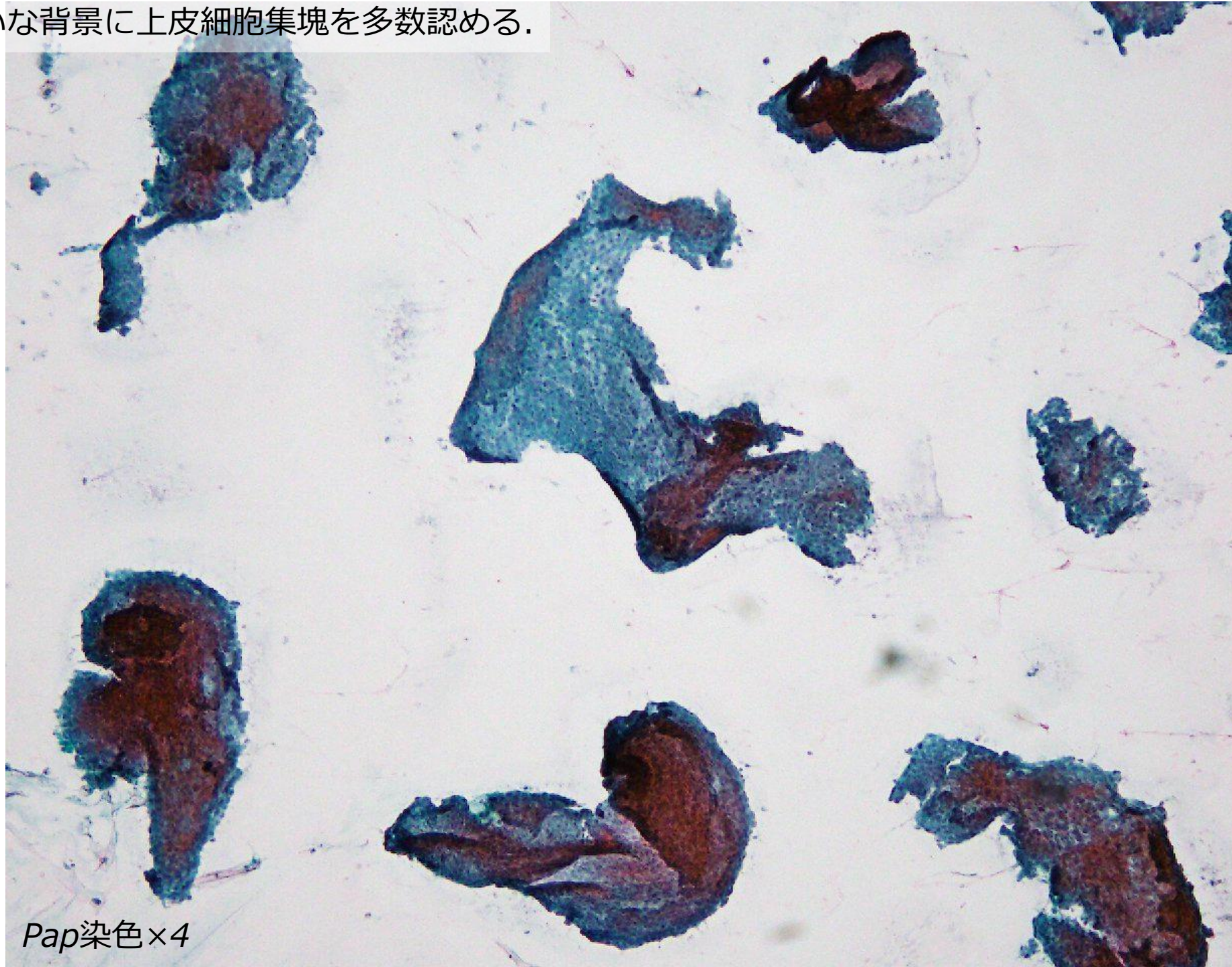
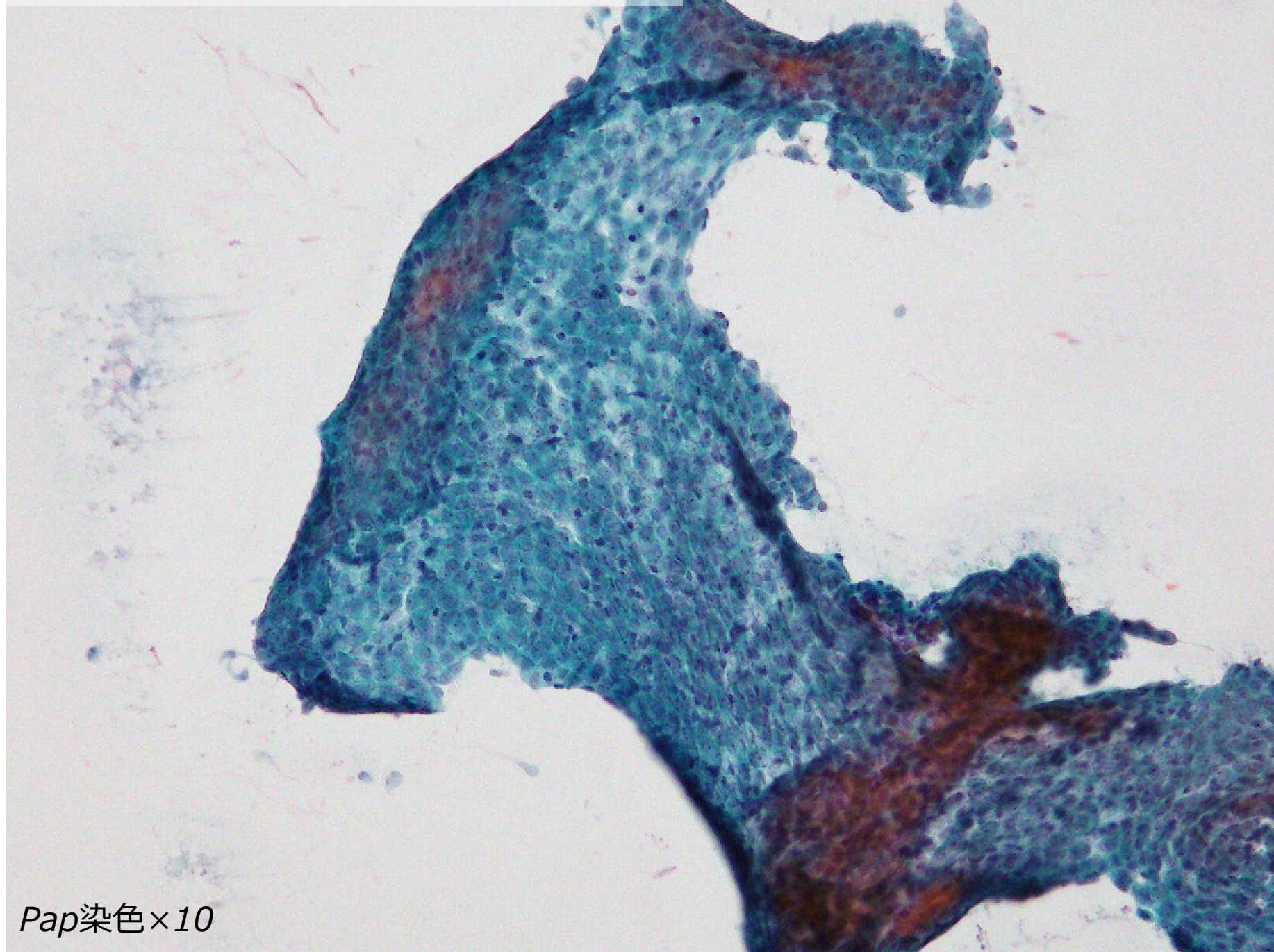


きれいな背景に上皮細胞集塊を多数認める。



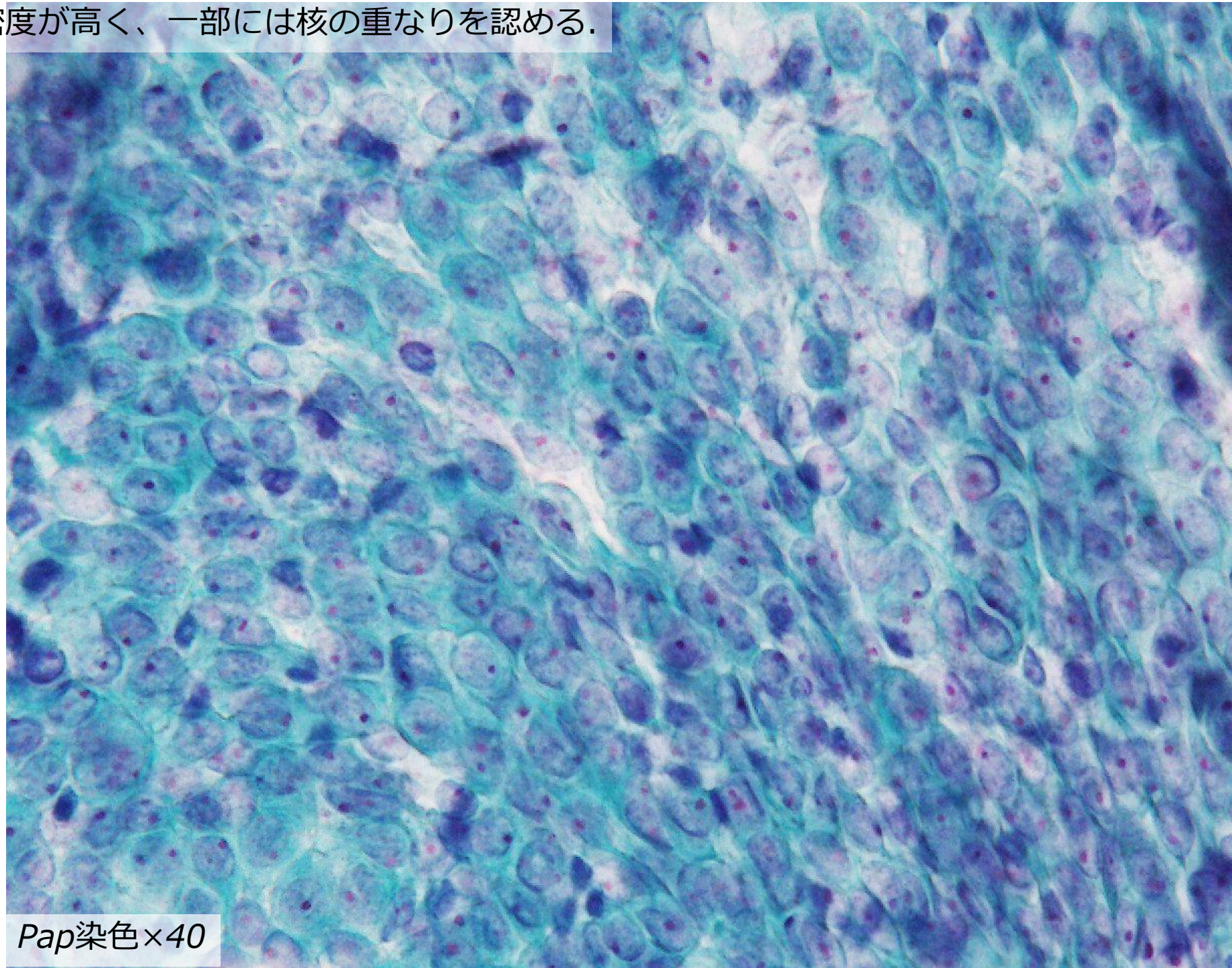
Pap染色×4

シート状の集塊で筋上皮細胞との二相性を認める.



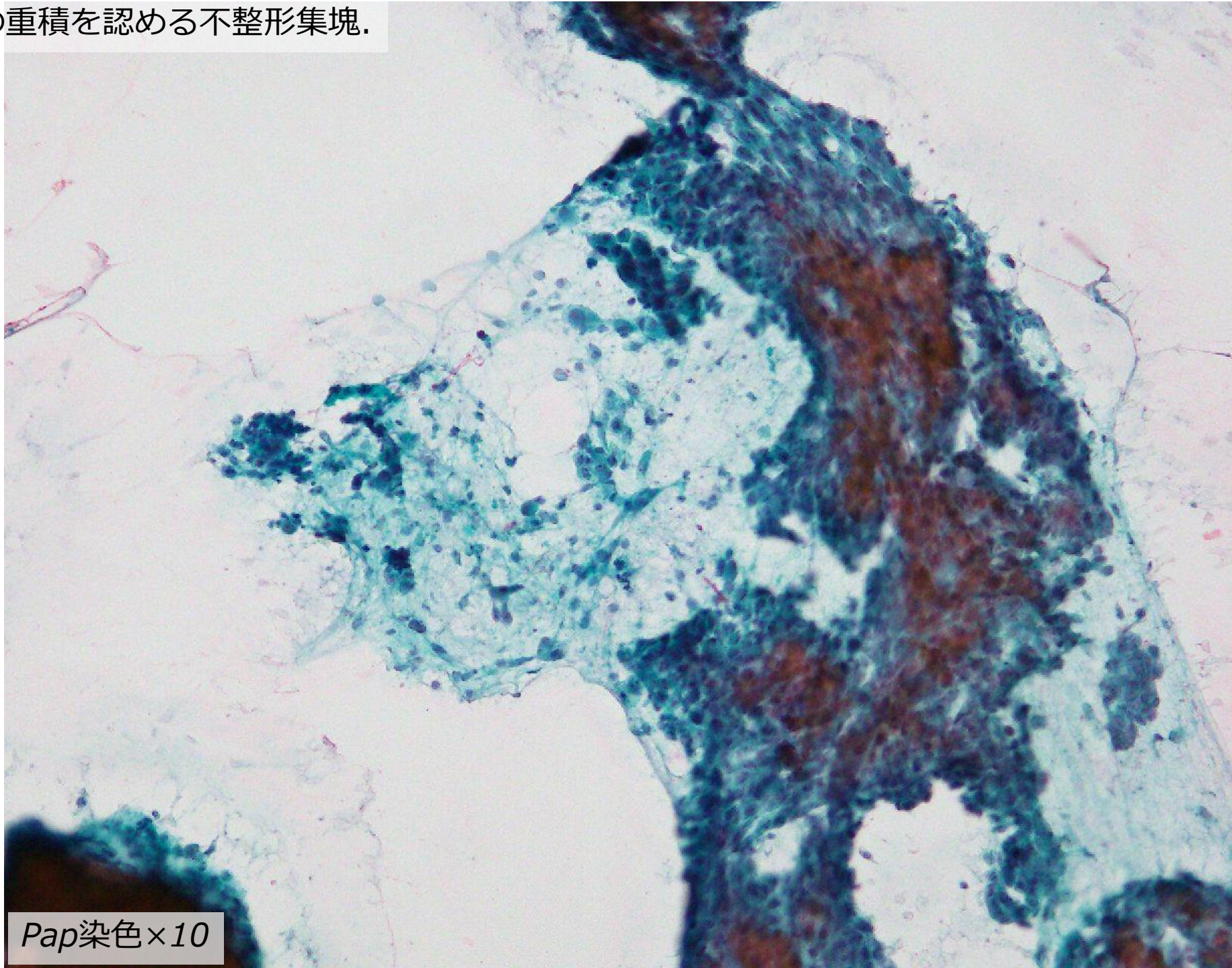
Pap染色×10

細胞密度が高く、一部には核の重なりを認める。



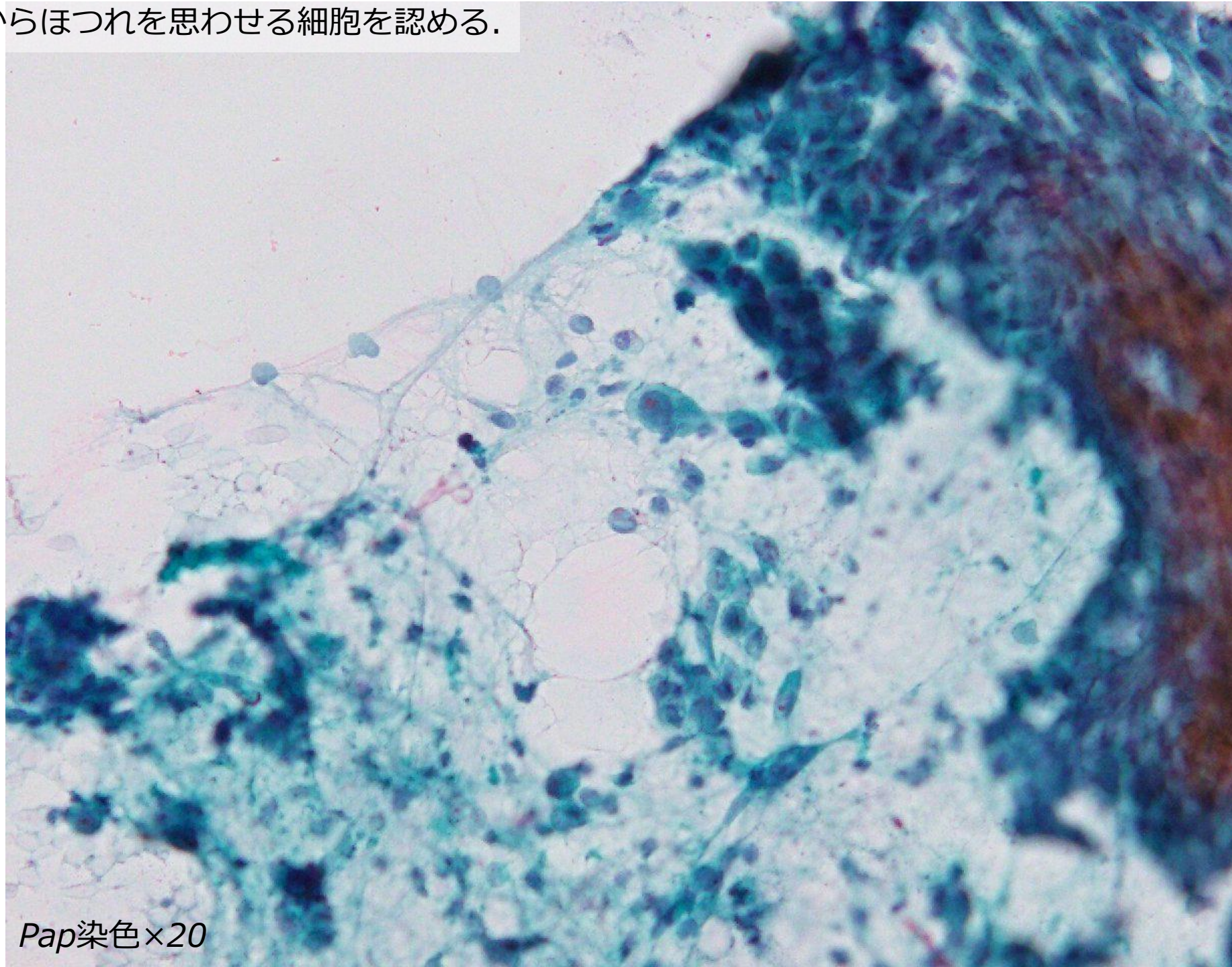
Pap染色×40

軽度の重積を認める不整形集塊.



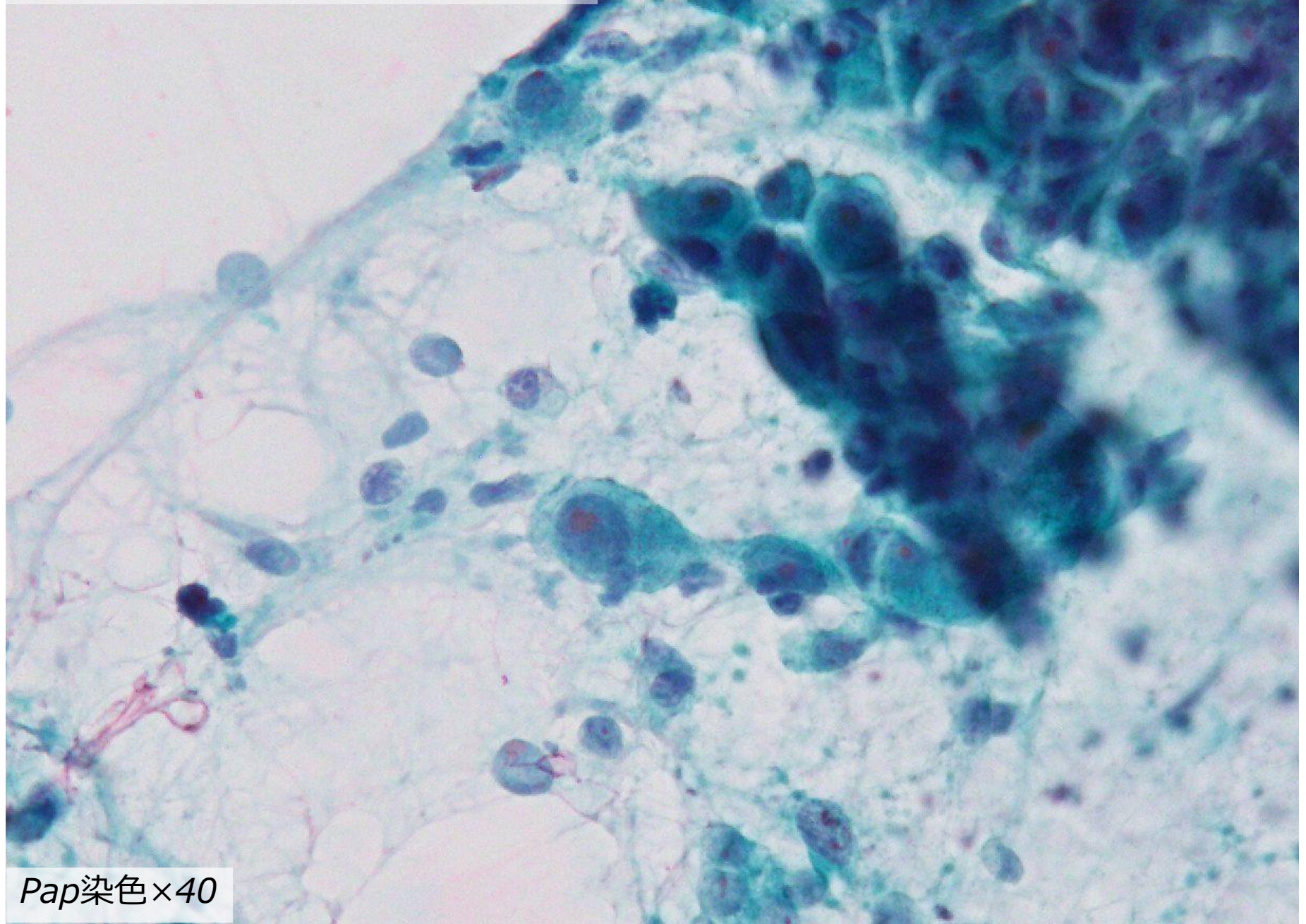
Pap染色×10

集塊からほつれを思わせる細胞を認める.



Pap染色×20

大型明瞭な核小体を有し、核のクロマチンは微細顆粒状を呈している。



Pap染色×40

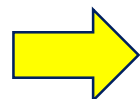
細胞所見

- きれいな背景にシート状の細胞密度の高い集塊から重積性を示す不整形集塊.
- 筋上皮細胞の介在が不明瞭な集塊.
- 一部に集塊からほつれを思わせる細胞.
- 個々の細胞は、明瞭な核小体を有し、核のクロマチンは微細顆粒状を呈する.

判定区分：Class IIIb 鑑別困難

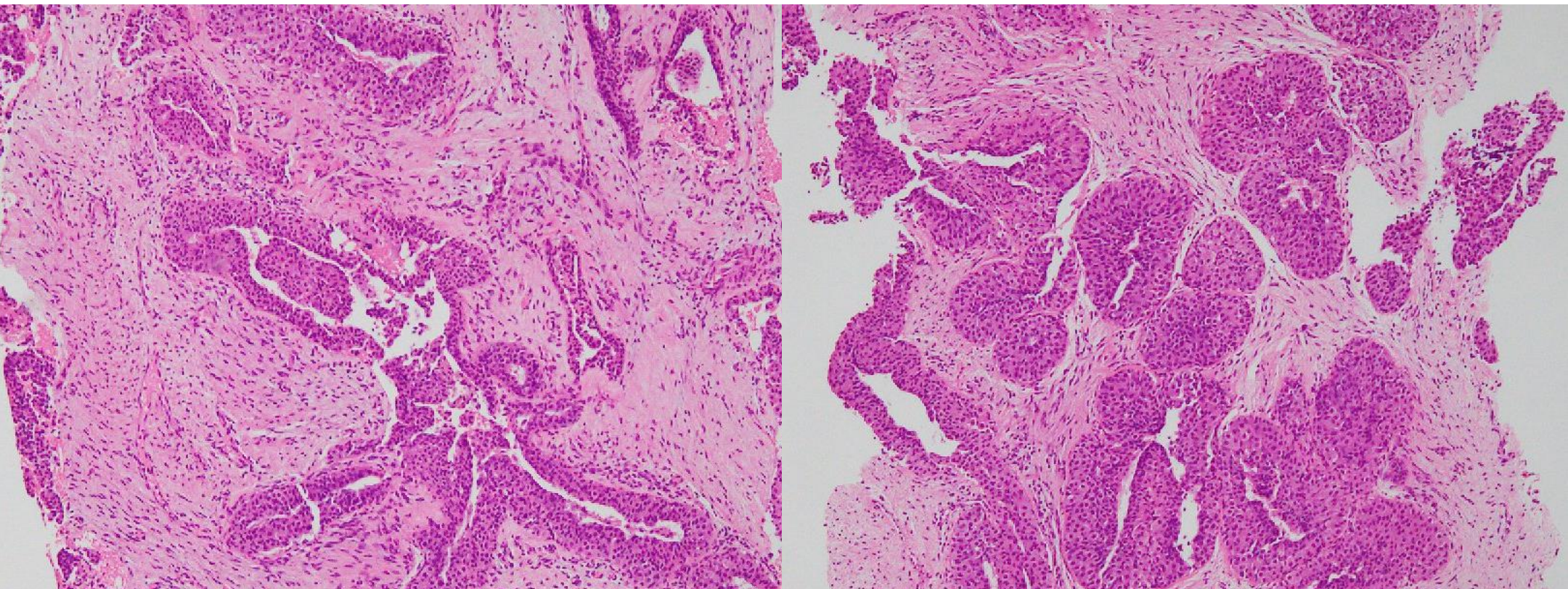
推定組織型：乳管過形成 ≤ 非浸潤性乳管癌

鑑別診断：線維腺腫・乳管内乳頭腫・浸潤性乳管癌



生検組織診による精査を依頼.

Left breast CNB

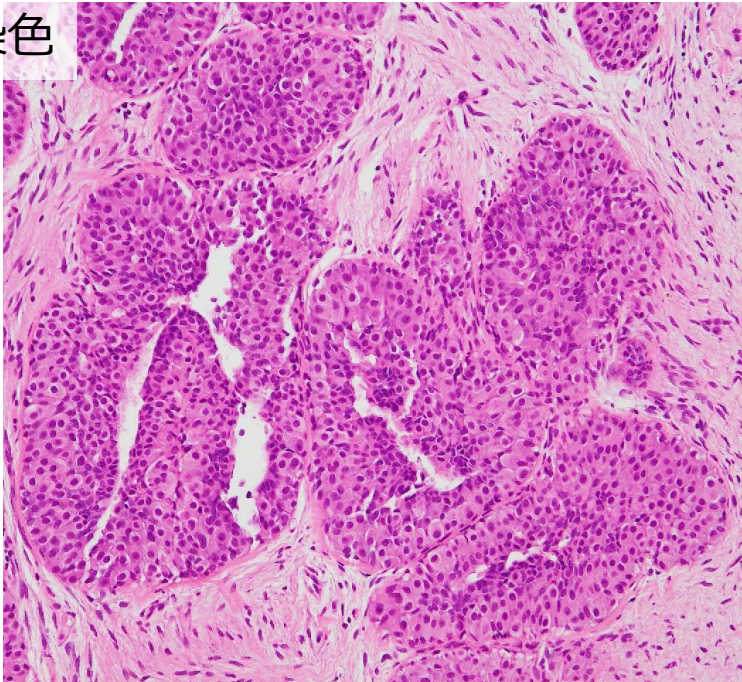


組織診断

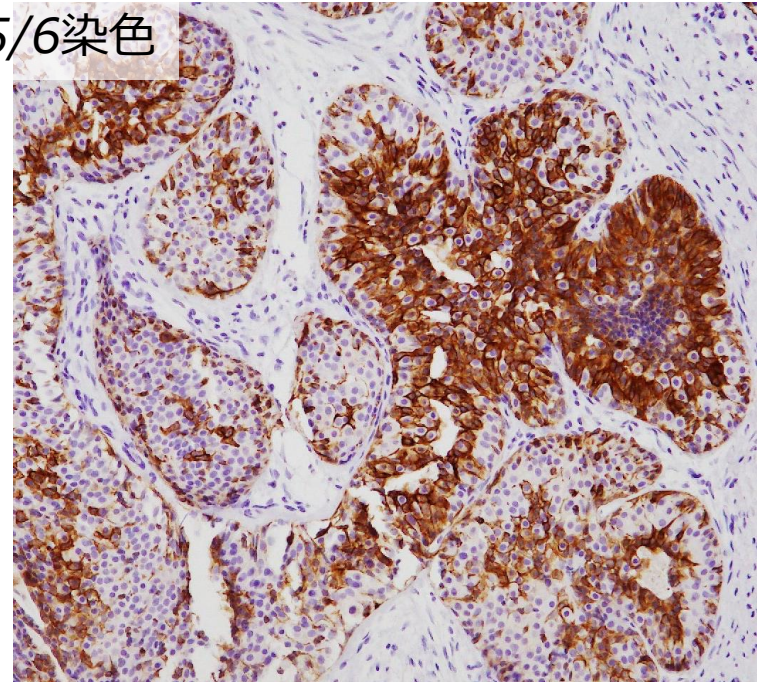
Fibroepithelial lesion.

病変内の乳管は epithelial hyperplasia を示し,UDHとADHの鑑別を要する.

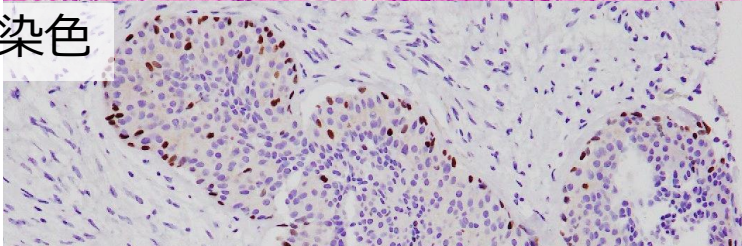
HE染色



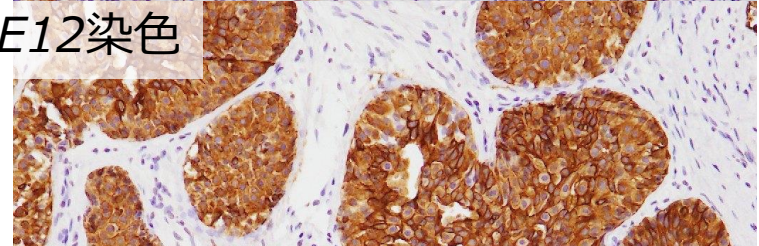
CK5/6染色



P63染色



34βE12染色



最終診断

Fibroadenoma.

管周囲型 > 管内型

epithelial hyperplasia 成分を含む線維腺腫.

今回の細胞像で注意する所見

- シート状の細胞密度の高い集塊から重積性を示す不整形集塊.
- 筋上皮細胞の介在が不明瞭な集塊.
- 集塊からほつれを思わせる細胞.

直接塗沫法（すり合わせ）と

LBC法における細胞の見え方

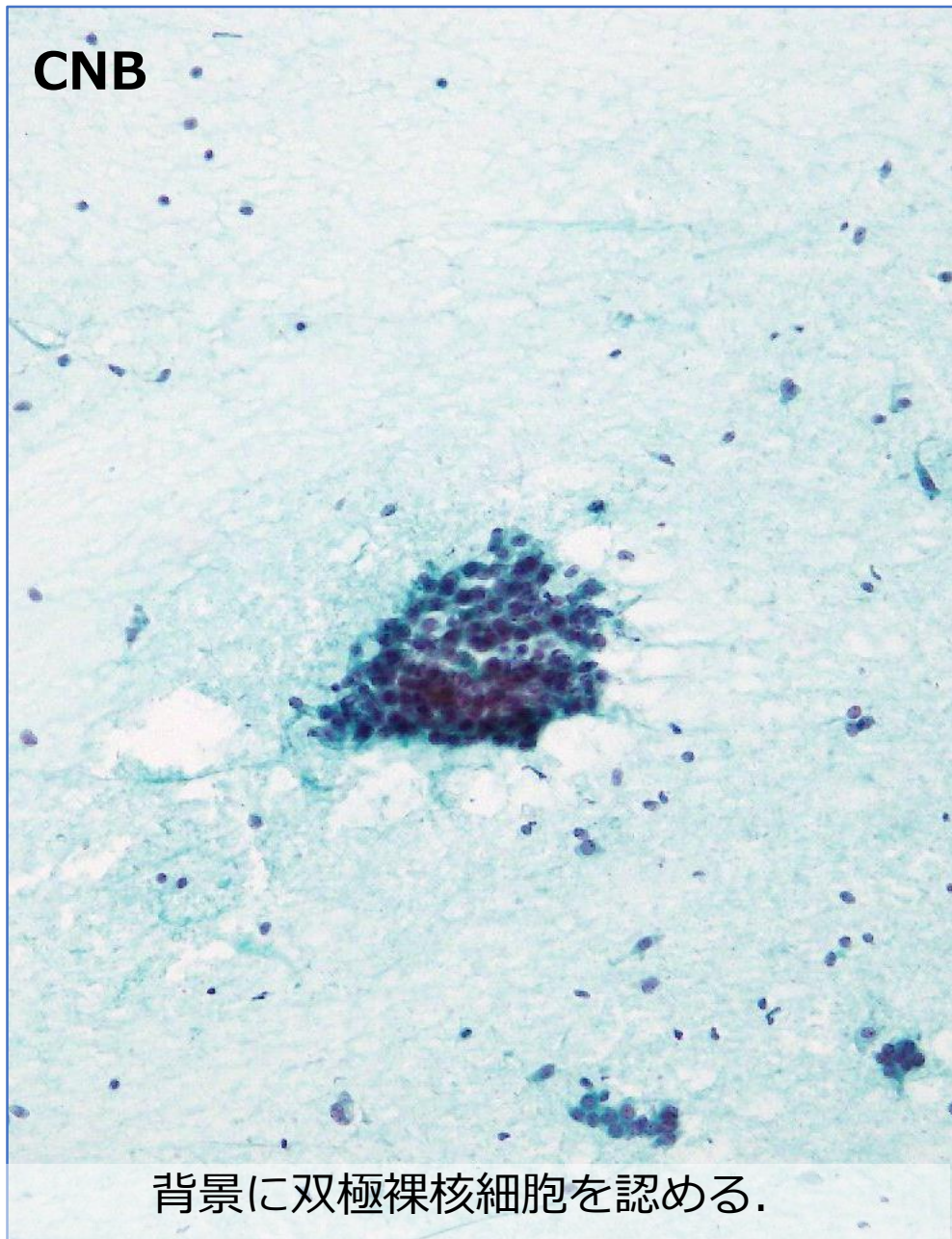
標本作製法

- ◆ FNAC：すり合わせ法
- ◆ CNB：捺印
- ◆ LBC：サイトコレクト（武藤化学）

症例 1

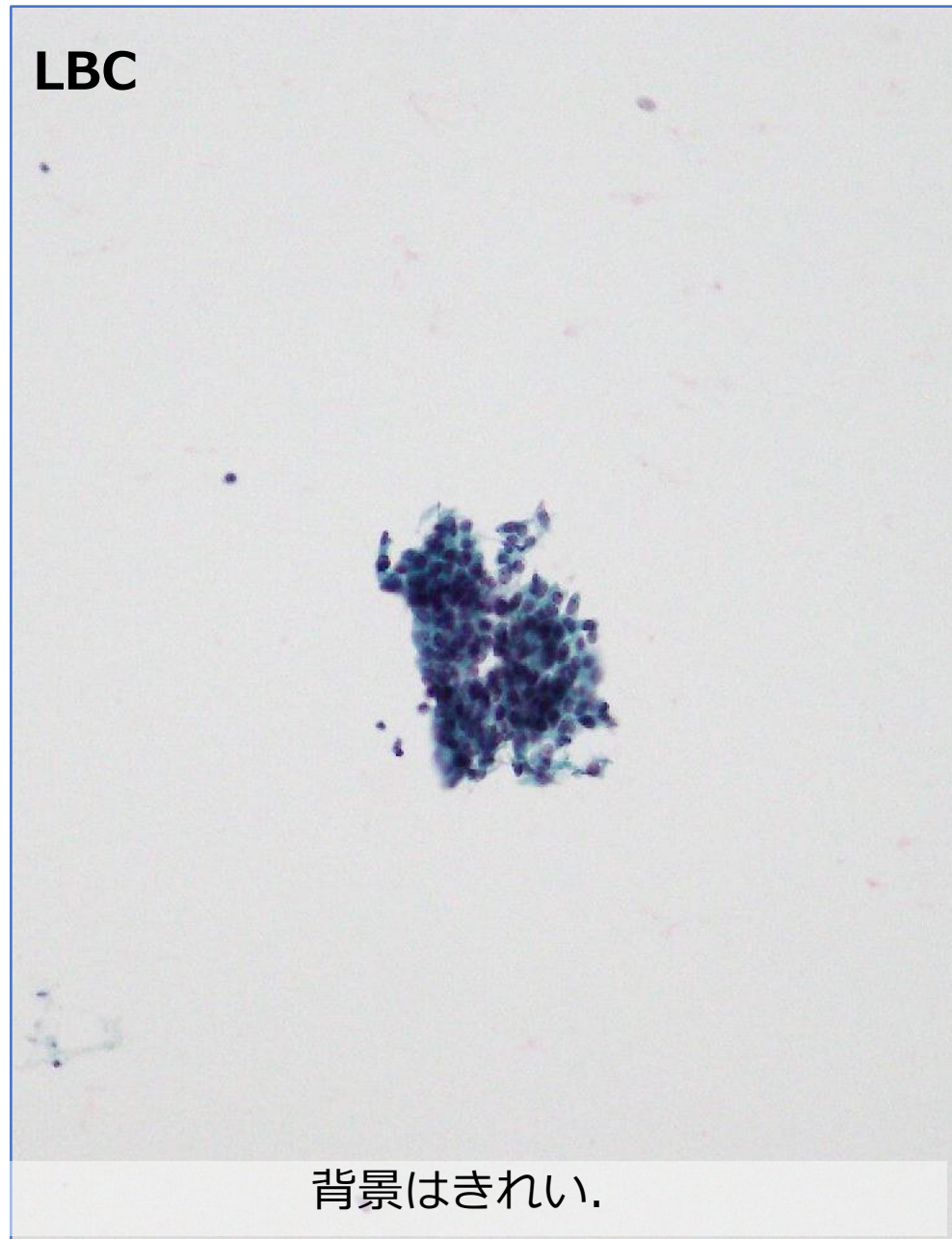
Fibroadenoma

CNB



背景に双極裸核細胞を認める。

LBC

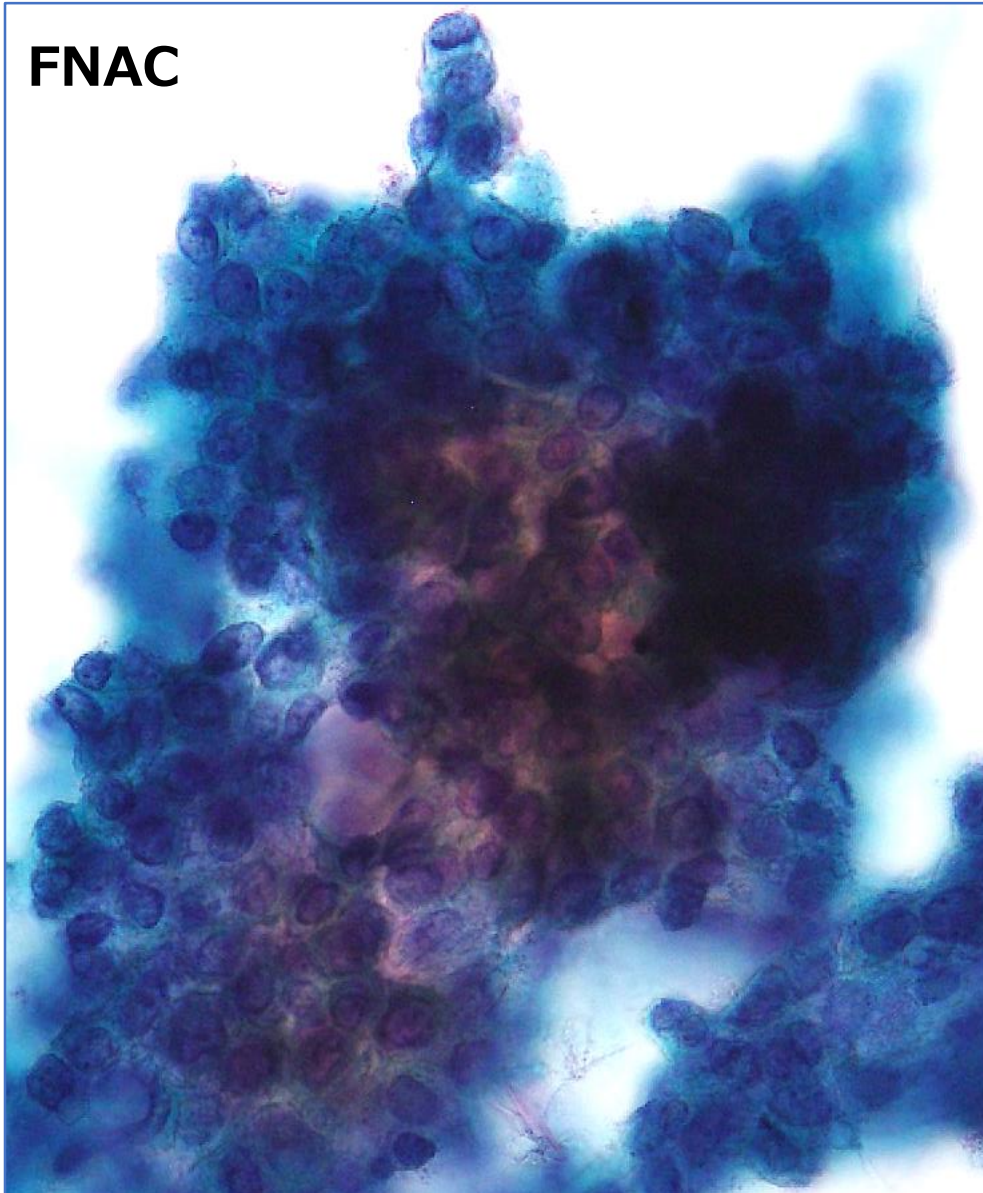


背景はきれい。

症例 2

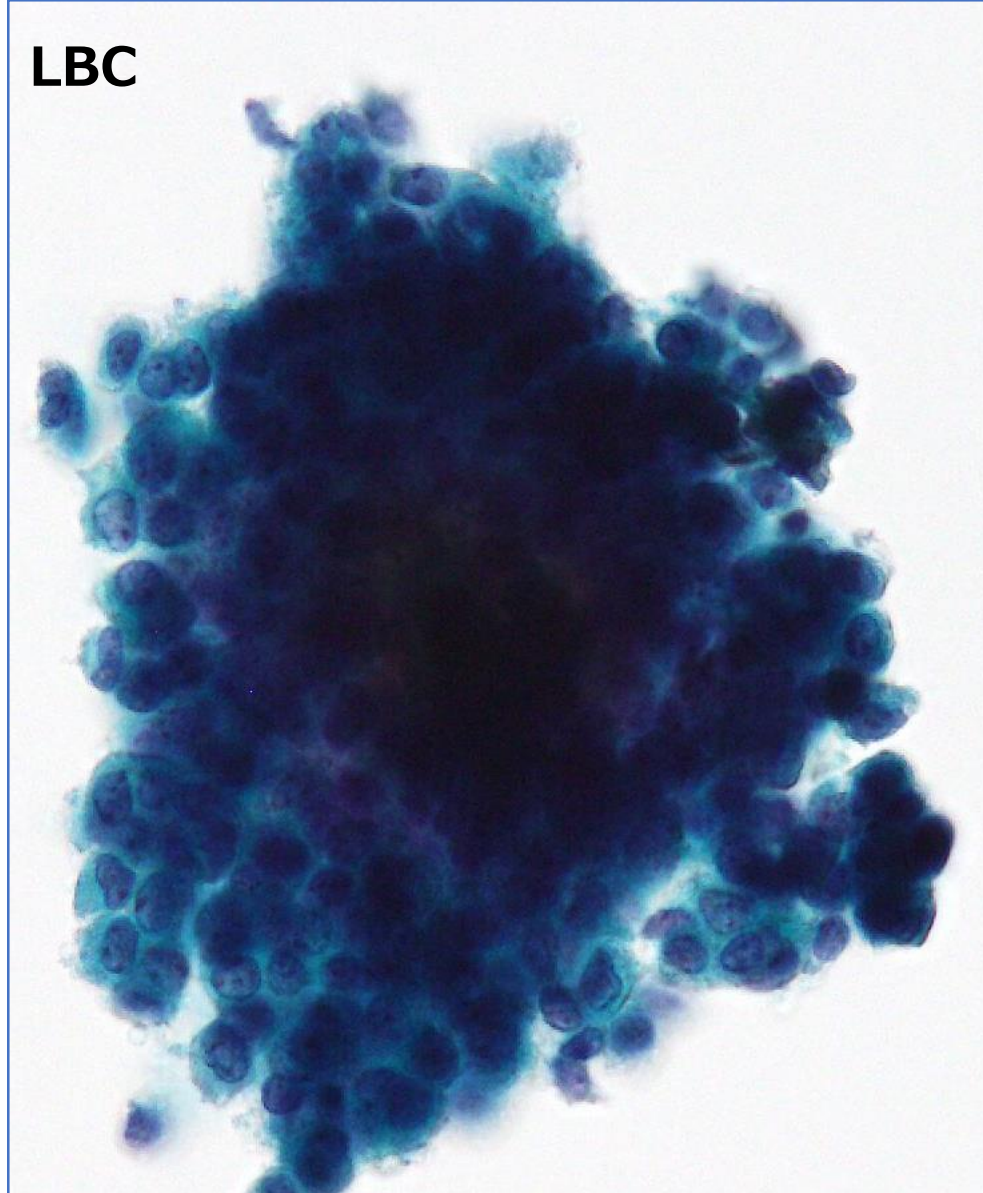
DCIS

FNAC



核縁明瞭で緊満感を認める.

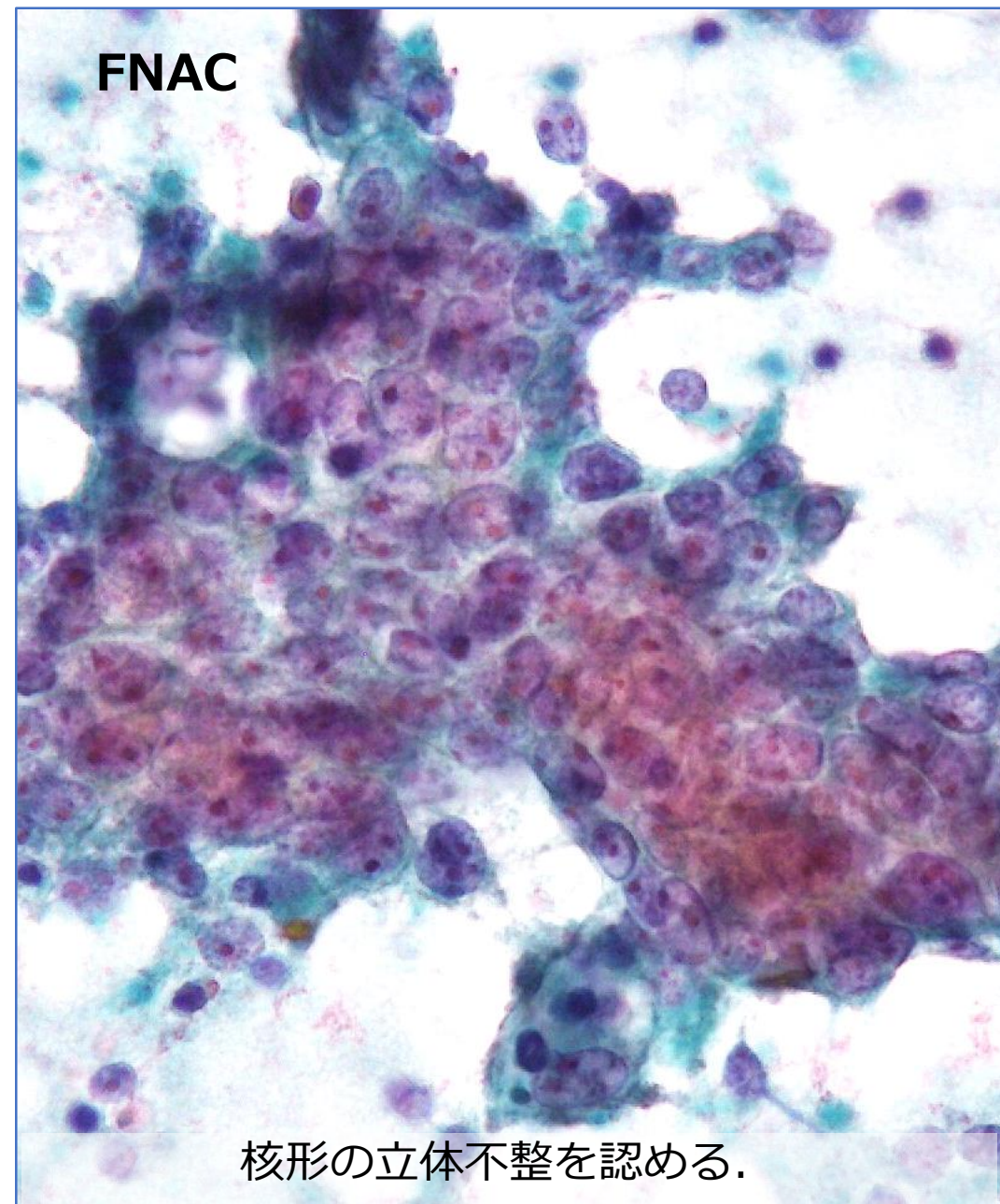
LBC



微細顆粒状のクロマチン増量を認める.

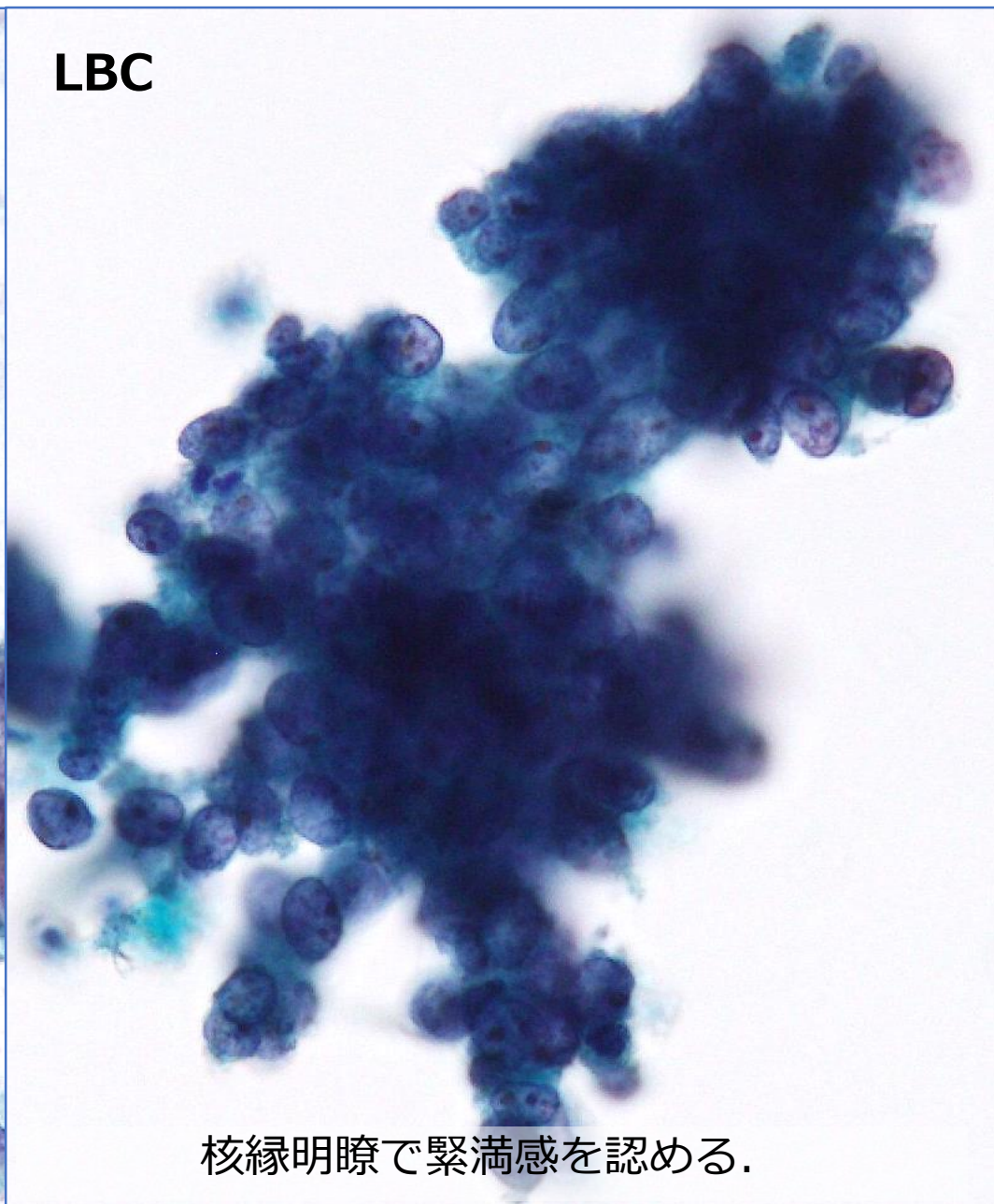
症例 3 Invasive ductal carcinoma (NG 2)

FNAC



核形の立体不整を認める.

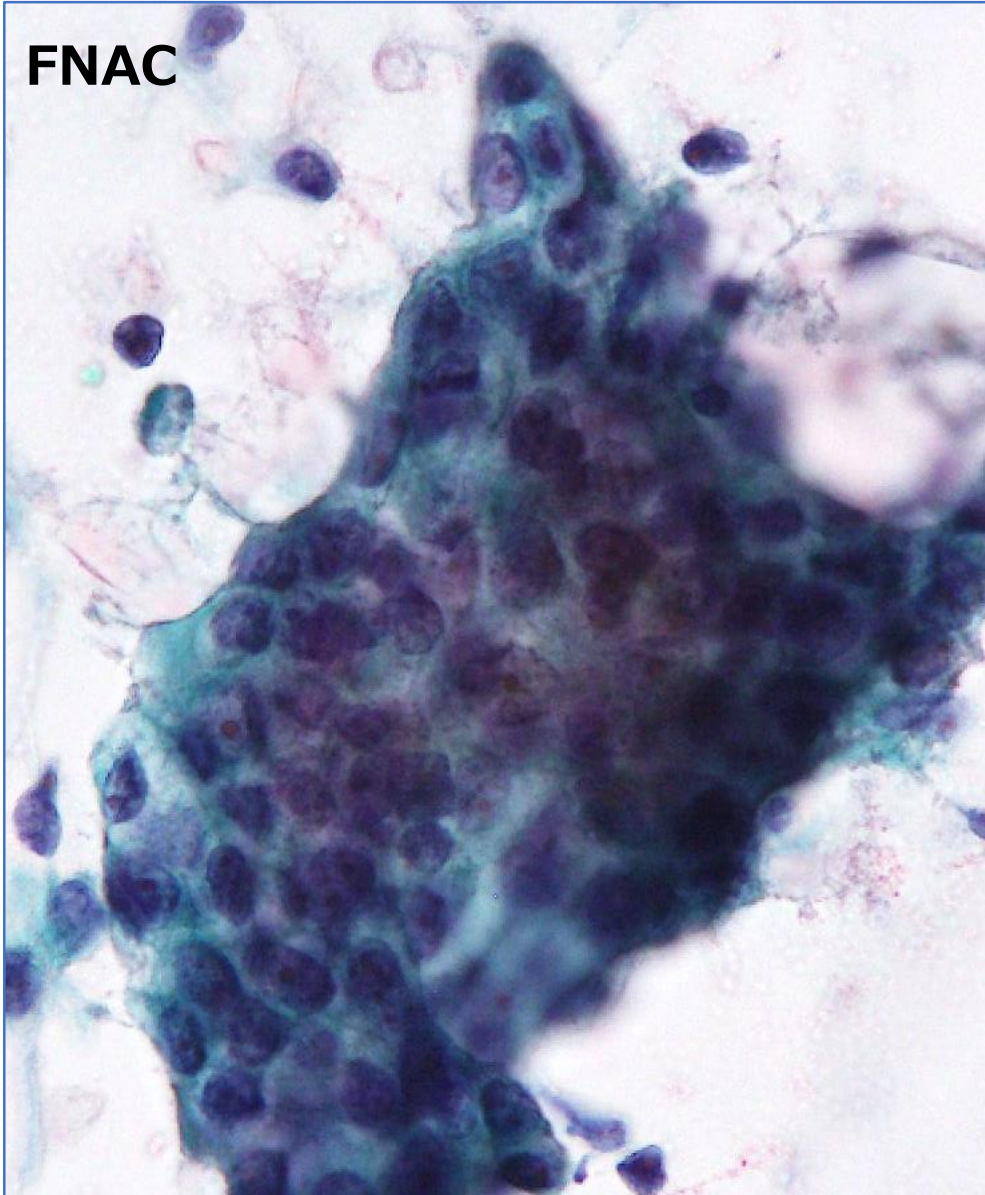
LBC



核縁明瞭で緊満感を認める.

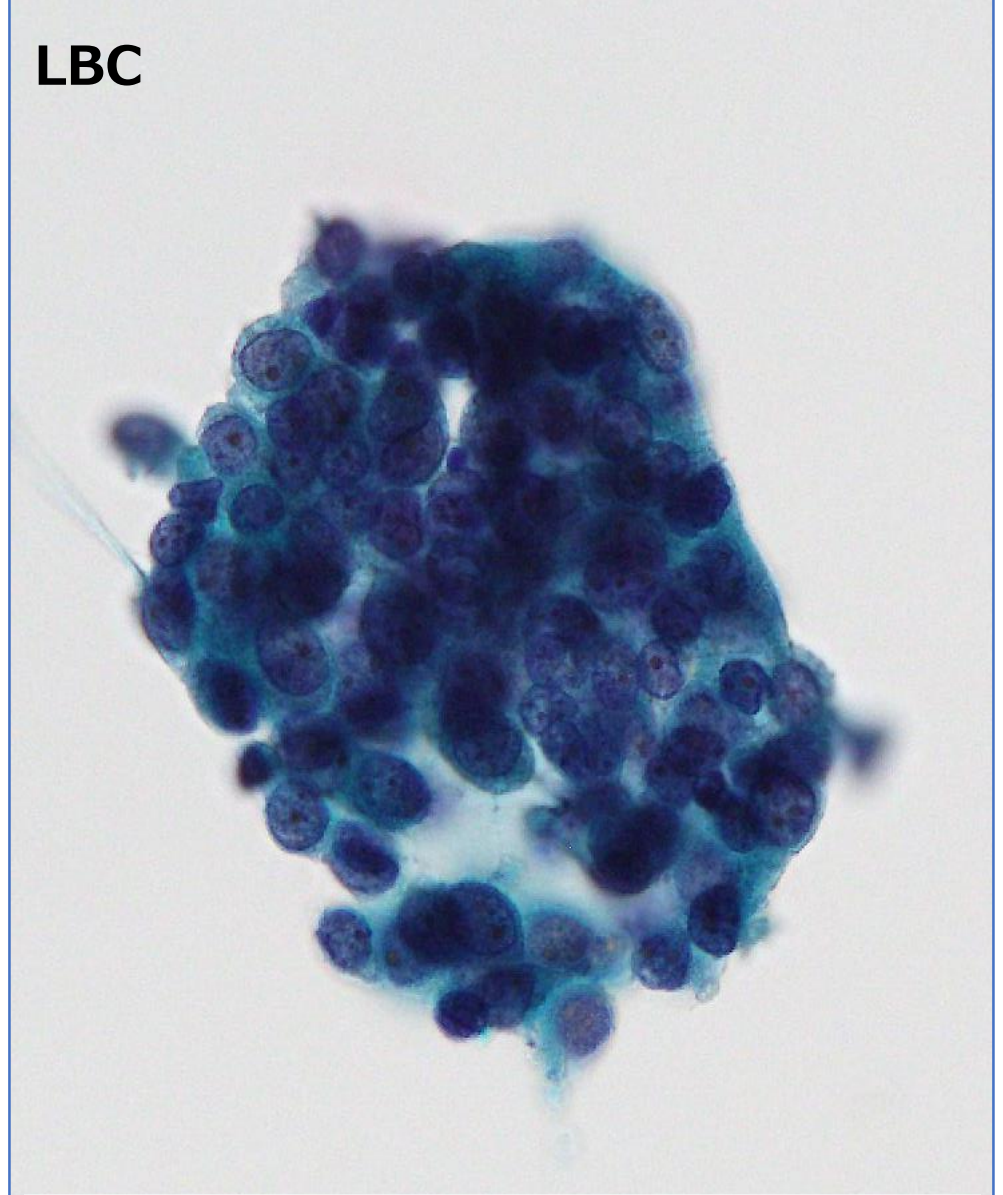
症例 4 Invasive ductal carcinoma (NG 2)

FNAC



微細顆粒状のクロマチン増量を認める.

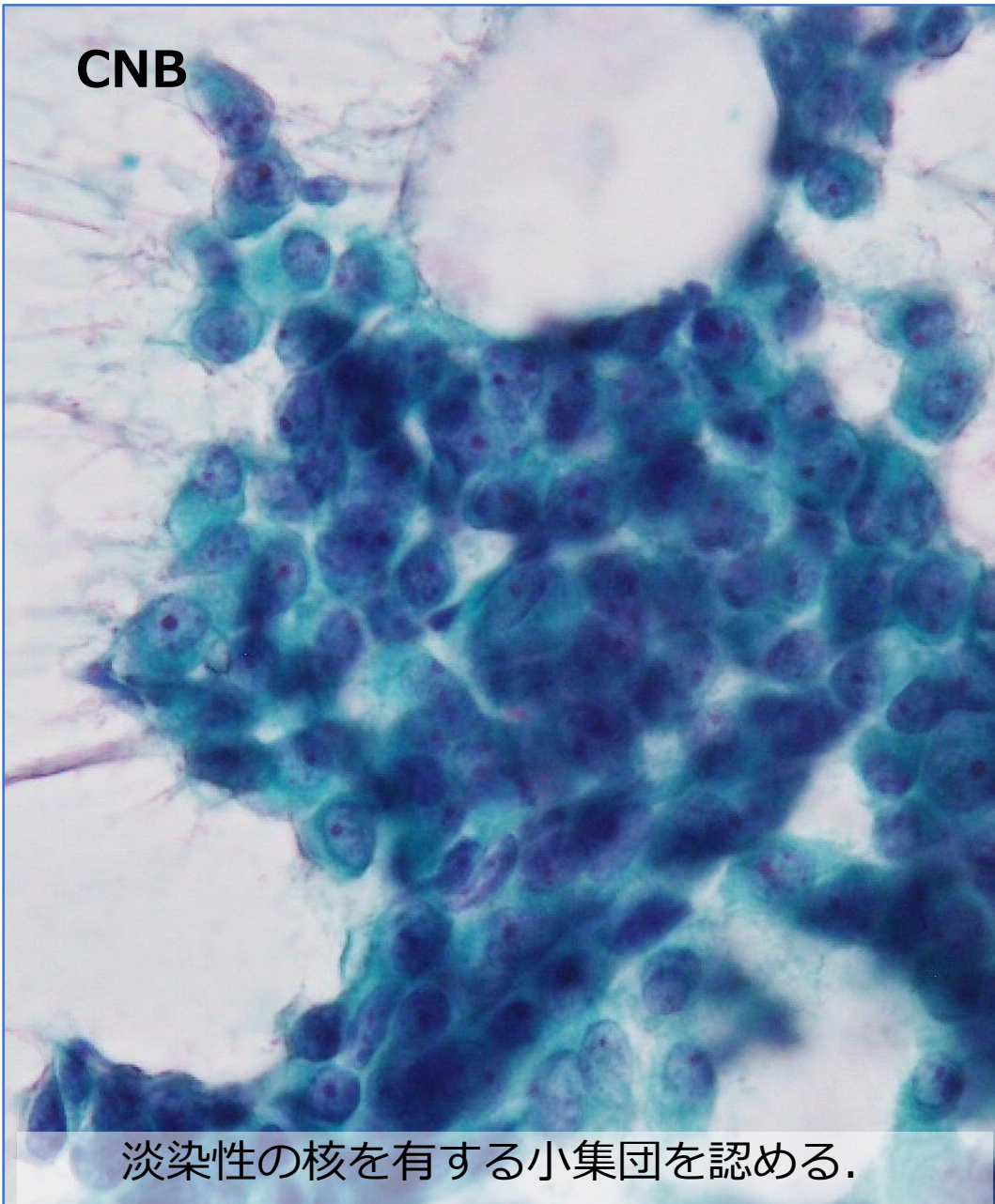
LBC



細顆粒状のクロマチン増量を認める.

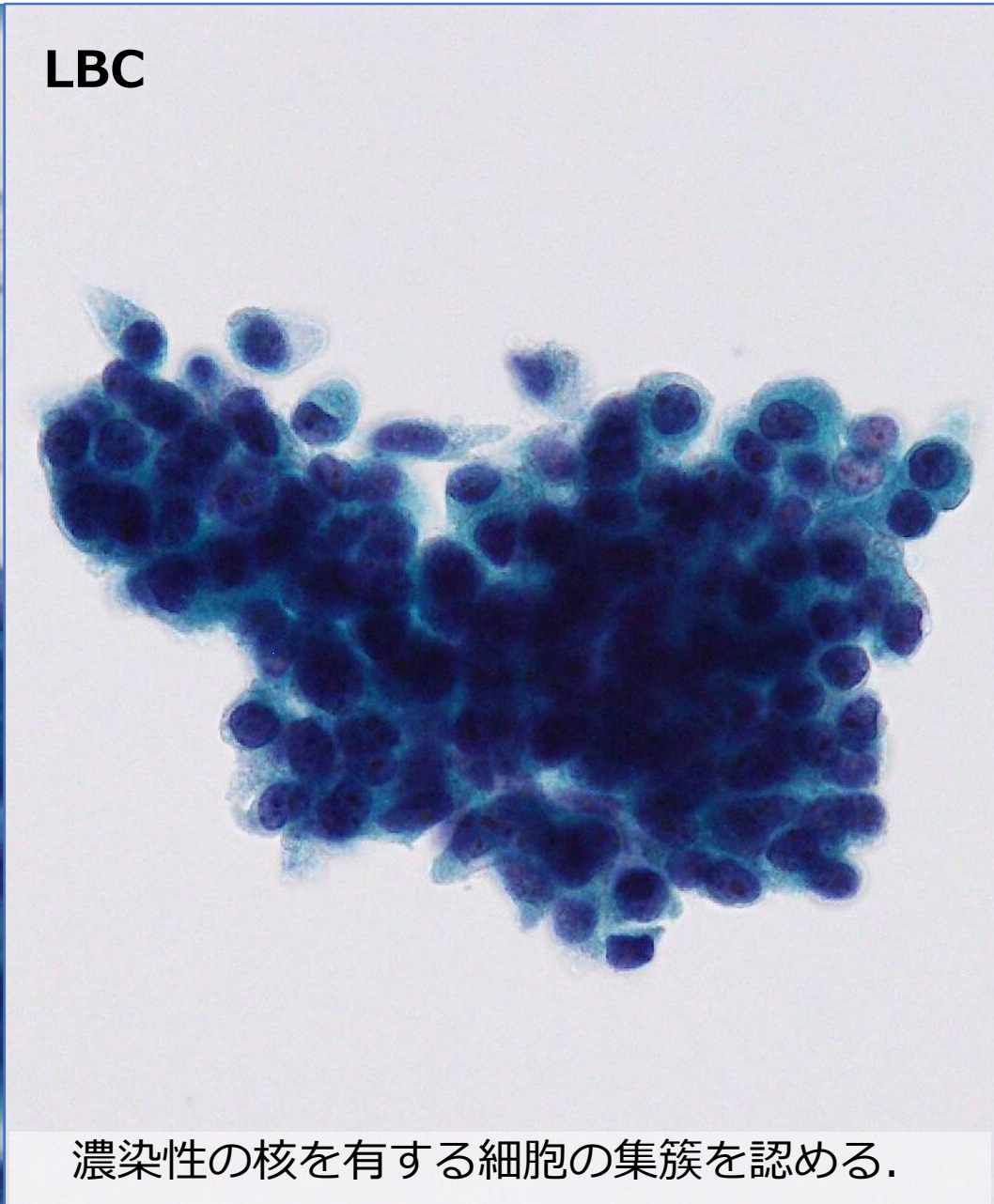
症例 5 Invasive lobular carcinoma (NG 2)

CNB



淡染性の核を有する小集団を認める.

LBC

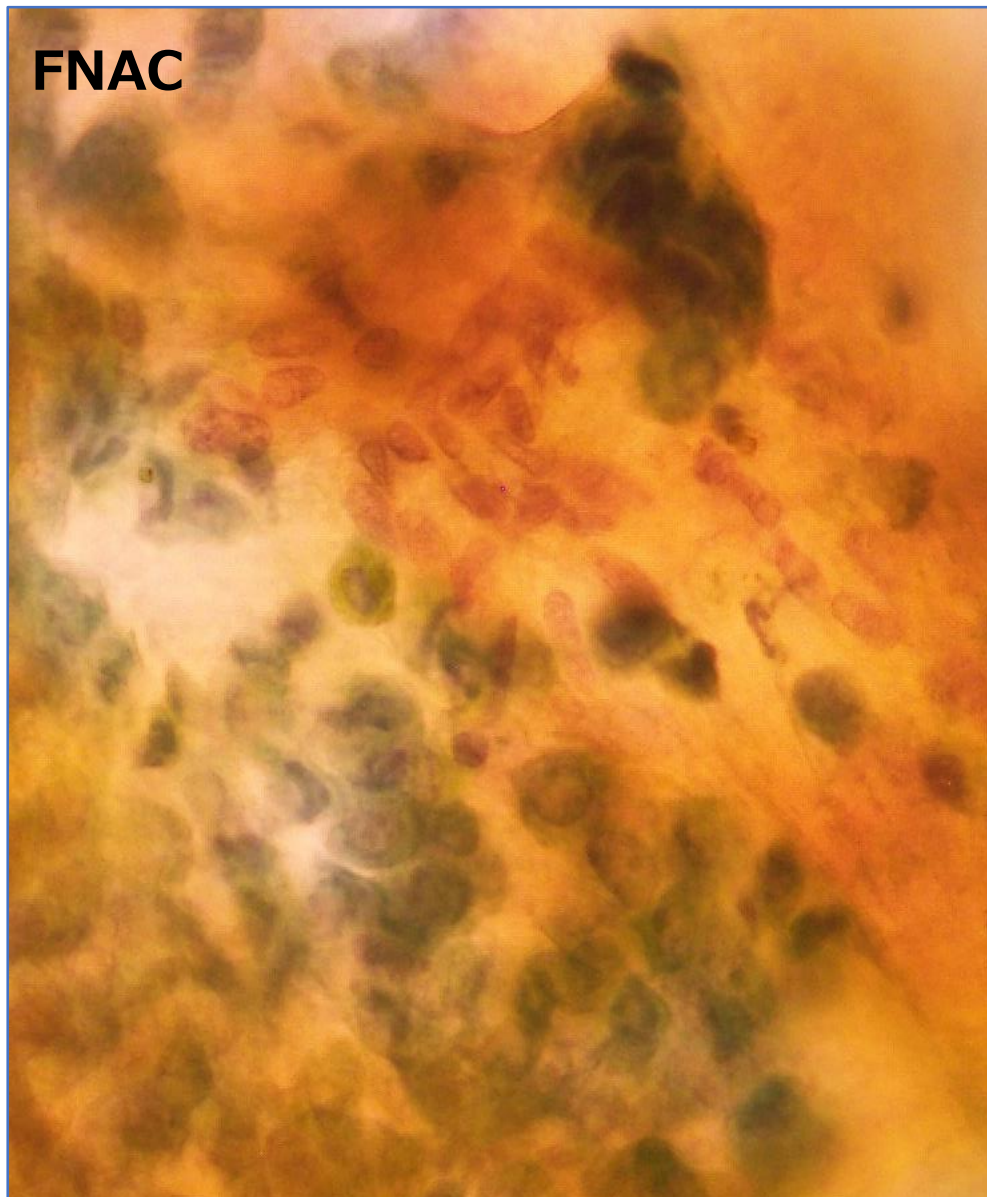


濃染性の核を有する細胞の集簇を認める.

症例 7

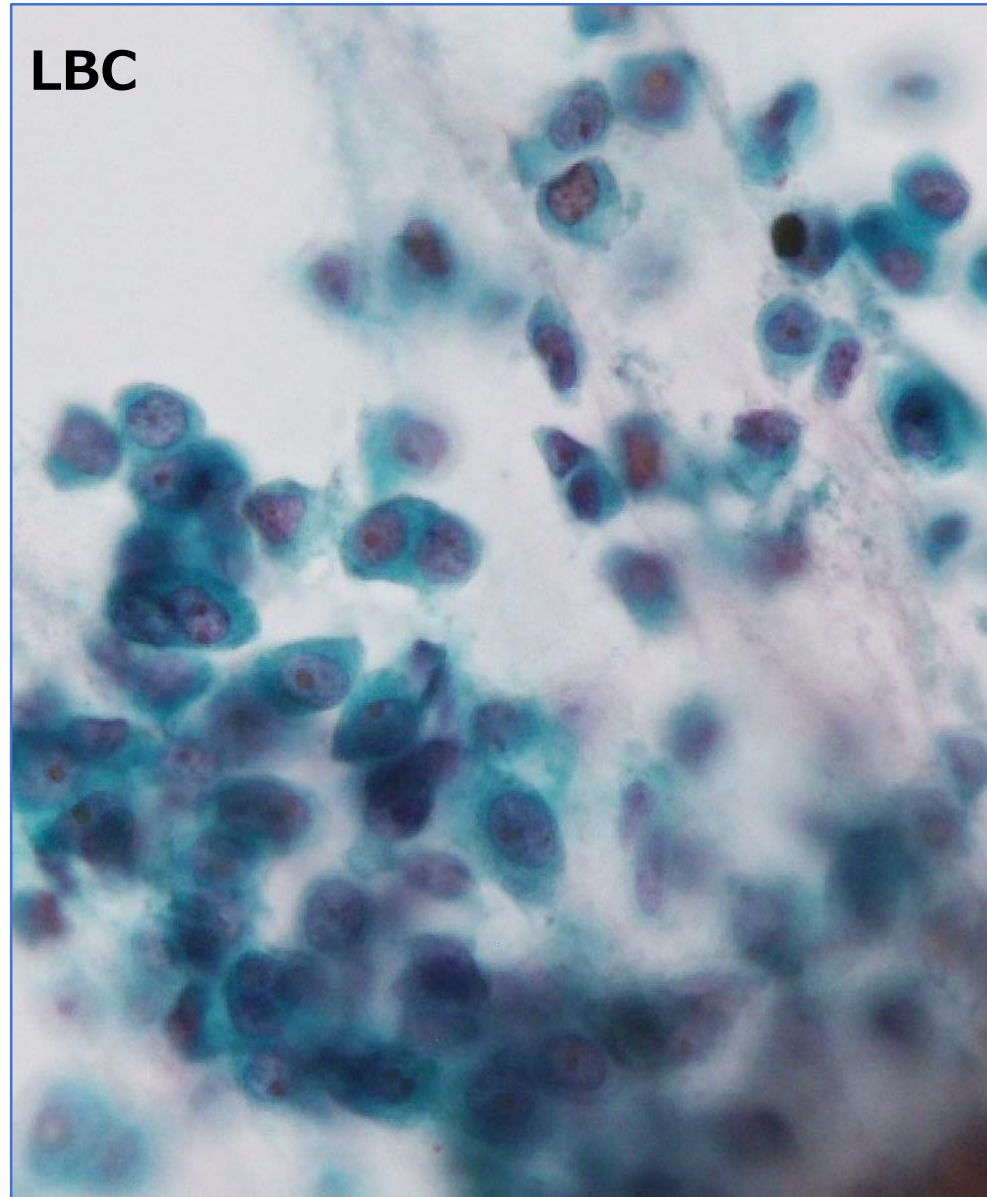
Mucinous carcinoma (NG 1)

FNAC



細胞周囲に豊富な粘液を認める.

LBC



細胞周囲に少量の粘液所見を認める.

乳腺LBC法における細胞の見え方

- ◆背景所見が乏しく、診断に苦慮する場合がある。
- ◆核のクロマチンは濃染傾向のため、筋上皮細胞との二相性判定に苦慮する場合があります、所見を総合的に判定する必要があります。
- ◆細胞採取量が多い場合は、保存検体で筋上皮マーカー・高分子サイトケラチンなどの免疫組織化学染色を行うことが可能であり、鑑別困難な場合の診断精度向上に寄与する。